

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、紀貫之と言ふ歌詠みありけり。土佐守になりて其の国に下りてありける程に、任はての年、七つ八つばかりありける男子の、形いつくしかりければいみじくかなしく愛し思ひけるが、日來<sup>A</sup> 煩<sup>A</sup>ひてはかなくして失せにければ、貫之限りなくこれを歎き泣きまどひて、病み付くばかり思ひこがれける程に、<sup>B</sup> かくてのみあるべき事にあらねば、上りなむと言ふ程に、かの児のここにてとかく遊びし事など思ひ出でられて、<sup>C</sup> いみじく悲しく思えければ、柱にかく書き付けけり、

都へと思ふ心のわびしきは<sup>D</sup> 帰らぬ人のあればなりけり

と。上りて後も、<sup>E</sup> 其の悲しみの心失せでありける。其の館の柱に書き付けたりける歌は、今まで失せでありけりとなむ語り伝へたとや。

問1 左記の文は、文中のどこに補ったらよいか、補う箇所の前の五文字を記せ。(句読点を除く)  
月来になりにければ任ははてぬ。

問2 傍線部A「煩ひて」と同じ意味の語句を、文中から五文字以内で抜き出せ。

問3 傍線部Bはどのようなことか、わかりやすく、二十字以内で答えよ。

問4 傍線部Cの品詞分解で正しいものを次の中から選べ。

- ① 形容詞―副詞―動詞―助動詞―助詞
- ② 形容詞―形容詞―動詞―助動詞―助詞
- ③ 副詞―形容詞―動詞―助動詞―助詞
- ④ 形容詞―動詞―助詞
- ⑤ 副詞―形容詞―動詞―助詞

問5 傍線部Dは誰のことか。次の中から選べ。

- ① 貫之
- ② 都人
- ③ 男子
- ④ 妻
- ⑤ 家人

問6 文中より係り結びの箇所を見出し、係りの語と結びの語をそれぞれ書け。

問7 傍線部Eを解釈せよ。

問8 問題文(『今昔物語集』)のジャンルは、次のどれにあたるか。

- ① 歴史物語
- ② 説話文学
- ③ 日記文学
- ④ 随筆
- ⑤ 歌物語

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、<sup>\*</sup>一条の摂政殿の住み給ひける<sup>\*</sup>桃園は、今の世尊寺なり。そこにて摂政、<sup>\*</sup>季の御読経行はれける時に、  
 (a) 山・(b) 寺・奈良のやむごとなき学生どもを選びて請ぜられたりければ、皆参りたりけるに、夕座を待つほどに、  
 僧ども居並みて、或は経を読み、或は物語など<sup>(1)</sup>してなむ<sup>(2)</sup>みたりける。

寝殿の南面を御読経所に定めたりければ、その御読経所に居並みであるほどに、南面の山・池などのいみじくお  
 もしろきを見て、<sup>\*</sup>山階寺の僧中算がいはく、「あはれ、この殿の木立<sup>きだち</sup>は、異所には似ずかし」といひけるを、かた

はらに<sup>\*</sup>木寺の基増といふ僧あて、これを聞くままに、「奈良の法師こそなほ疎き者はあれ。物言ひはいやしきもの  
 かな。<sup>①</sup>木立とこそいへ、木立といふらむよな。<sup>②</sup>うしろめたなきことばや」といひて、爪<sup>つま</sup>弾きをはたはたとす。

中算、かくいはれて、「悪しく申してけり。さらば、御前をば小寺の小僧とこそ<sup>③</sup>申すべかりけれ」といひければ、  
 ありとある僧ども、皆これを聞きて、声をはなちておびたしく、笑ひけり。

その時に、摂政殿、この笑ふ声を聞き給ひて、「何事を笑ふぞ」と問はせ給ひければ、僧どもありのままに申し  
 ければ、殿、「これは中算がかくいはむとて、基増が前にていひ出したることを、いかでか心を<sup>(3)</sup>得ずして、基増  
 が案に<sup>(4)</sup>落ちて、かくいはれたるこそつたなけれ」と仰せ給ひければ、僧ども<sup>Y</sup>いよいよ笑ひて、それより後、小  
 寺の小僧といふ異名はつきたるなりけり。「<sup>(4)</sup>あぢきなく物とがめして異名つきたる」とてなむ、基増くやしがり

\* 一条の摂政殿 藤原伊尹。師輔の子。道長の伯父。  
 \* 桃園 平安京大内裏の北方の地。  
 \* 季の御読経 春秋二季に、寺々の僧を招いて経を読んでもらう仏事。  
 \* 山階寺 奈良の興福寺。  
 \* 木寺 京都、仁和寺内の一院。

ける。

この基増は、仁和寺の僧なり。木寺に住みけるによりて、木寺の基増とはいふなり。中算は、やむことなき学生なりけるに、またかく物言ひなむをかしかりける、となむ語り伝へたとや。

〔今昔物語集〕

問1 傍線部(a)・(b)はどこを指しますか。次の中からふさわしいものを一つずつ選びなさい。

- (ア) 春日山 (イ) 金峰山 (ウ) 鞍馬山 (エ) 高野山  
(オ) 石山寺 (カ) 延暦寺 (キ) 園城寺 (ク) 仁和寺

問2 傍線部①～④の口語訳としてふさわしいものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① (ア) 木立こだちといえ (イ) 木立こだちというのに (ウ) 木立こだちというがいい  
(エ) 木立きだちといえ (オ) 木立きだちというのに (カ) 木立きだちというがいい
- ② (ア) 裏うらのある (イ) うしろ暗い (ウ) 思いきった  
(エ) 気がかりな (オ) 考えのない (カ) 根拠こんこのない
- ③ (ア) 申まをした方がいいのですね (イ) 申まをしたらどうでしょうね  
(ウ) 申まをしようだったのですね (エ) 申まをしてみればいいのですね  
(オ) 申まをすのがよかったですね (カ) 申まをさなければならぬのですね
- ④ (ア) いや味あじに (イ) 不十分ふじふに (ウ) わけ知り顔わけしりかほに  
(エ) 味あじもそっけもなく (オ) つまらないことに (カ) わけも知らないで

問3 傍線部Xについて、その笑った理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選びなさい。

- (ア) 中算が基増に悪口を浴びせて逆襲するという、思いがけないことが突然起こったから
- (イ) 中算が「小寺の小僧」と理屈に合わないことまでいって、自分の間違いを認めなかったから
- (ウ) 中算が非難されて、「小寺の小僧」と思わず口をすべらせたようすがこっけいに見えたから
- (エ) 中算がいった「小寺の小僧」ということには、単なるしゃれにとどまらない含みが感じられたから

問4 傍線部Yについて、そのいよいよ笑った理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選びなさい。

- (ア) 摂政殿の説明のことがとてもおもしろかったから
- (イ) 摂政殿の説明のつじつまが合わないことに気づいたから
- (ウ) 基増のとがめだてが中算の思うつぼにはまったものだとわかったから
- (エ) 基増のとがめだてを皆が笑ったにもかかわらず、中算が平然としていたから

問5 傍線部(1)～(4)の動詞の文法的説明としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選びなさい。

- (ア) ア行下二段活用未然形 (イ) サ行四段活用連用形 (ウ) サ行上一段活用未然形
- (エ) サ行変格活用連用形 (オ) タ行四段活用連用形 (カ) タ行上二段活用連用形
- (キ) ヤ行下二段活用未然形 (ク) ワ行上一段活用連用形 (ケ) ワ行上二段活用未然形
- (コ) ワ行下二段活用未然形

問6 今昔物語集と性格を同じくする作品を、次の中から二つ選びなさい。

- (ア) 打聞集 (イ) 往生要集 (ウ) 玉葉集 (エ) 風雅集 (オ) 宇治拾遺物語
- (カ) 栄花物語 (キ) 狭衣物語 (ク) 曾我物語